

口は健康のもと Vol.79 永久歯を抜いて並び矯正

無理なく並べるため

歯並びのことを「歯列弓」といいますが、これは英語の「デンタルアーチ」を訳したものです。奥歯は直線的に並んでいますが、前歯はわん曲して並んでおり、弓のような弧を描くことから命名されたのでしょう。

日本人には、前歯の並びが重なったり捻じれたりする叢生（そうせい）という不正な咬み合わせが多くみられます。

これは前歯の幅に対して顎が小さいことで起きます。上下の歯列弓を咬み合わせると、前歯のところは、表面積を最小限にしようとして球体が形作られ、半球状になっています。この半球状のところには大きな歯が並び、叢生となるのです。

言い換えると、歯列弓を理想的な形にするために大きな歯を重ねることで解決したのだと解釈できます。

叢生の原因は前歯にあります。歯並びをきれいにするために前歯を抜くことは見栄えが悪いので、避けなければなりません。そこで矯正歯科治療では小臼歯を抜いてできた隙間を利用して歯を並べます。

患者さんに歯を抜く必要性について話すと「後で隙間が残るのですか」と質問が返ってきます。歯茎から永久歯が時間をかけて生えてくることを考えれば、歯は動くことに気づくはず。歯並びの治療で永久歯を抜くのは、歯を無理なく正しく並べるために必要なことなのです。



奥羽大学歯学部附属病院
矯正歯科 教授 氷室 利彦

